



Title	沖縄関係 沖縄返還協定調印式(1) (調印式次第・首脳挨拶文) (第二回(6/5)   外務省外交史料館レファレンス番号 : H223270)
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(4)No.7   公開日 : 平成23年2月18日   外務省外交史料館管理番号 : B'5.1.0.J/U24   CD・DVD番号 : H22-020
Issue Date	
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43559">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43559</a>
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

才  
二  
田  
(  
6/5  
)

**無期限**  
 大 臣 官 房 長  
 秘書 次官 官 房 長  
 政務 次官 官 房 長  
 情報文化局長  
 報道課 長  
 条約 課 長  
 条約 課 長  
 アメリカ局長 次長  
 参事官  
 北米第一課長

官房総務参事官  
 官房書記官

内容記載後、  
 タクソにて  
 配布  
 済

沖縄返還協定調印に伴う広報に  
 関する米側の打合せ (3の2)  
 46.6.25  
 米比一  
 (記録別添) (4日) (本件に関する)  
 2日の会合に引き続き、米側の打合せも進行中  
 につき下記の通り。米側はヒヤコック (広報  
 担当)、キロン (政務担当) 両書記官、  
 当方 米比一、情通一、情通吉、  
 米比一 琉球両書記官出席。  
 記  
 1. 米側がテレビ放送の範囲  
 米側より、先日条約向と打合せの際、  
 (米側は) 日米協定 附属文書署  
 名の部分を放送するかどうかの質問が  
 あったが、これは、日本側としては米側に、

附属文書署名<sup>(の場合)</sup>を放送にまわらない  
 の意味なのかと聞いた。これに対し  
 当方より、詳細は条約向に照会すること  
 になった。これは全然差のつかない等と  
 (need confirmation だ)  
 あり、全部放送するが、これも一部で  
 切るとは全く米側次第である。答へ  
 (3の旨)  
 た。(席上 条約課長に電話にて確かめ  
 たところ、詳細は局長に確認する必要外  
 条約)  
 あり、附属文書署名の部分と米側が  
 放送するに差のつかないと思っ  
 述べた。  
 2. 告知(大) ロンパー入る旨を  
 米側より、技術的問題もある、また  
 式の書回等にも、どこか違いがある。

④-△

なお、米側より、調印式の締めくくりと乾杯をやるのかという点で、日精の際も行なったこともあり、おそろしく今回も行なうことになるであろうと答えておいた。(この点は今後審印による)

ので(厳禁を大きくしたるをおおきくはないか)、取り止めにしなうと海軍側はなにかとの意見が述べられた方からいふので)

れた。これに対し(当方より、<sup>大庭</sup> 参謀の<sup>香宮</sup> ロジックの<sup>香宮</sup> 会話を決めたわけではないので、<sup>香宮</sup> 検討しようとする(行なうこと) (この点) (この点)のまじはあり、<sup>香宮</sup> 退く)

とされた。④-△

### 3. 合同記者会見

当方より、米側より提案せる本件会見は当方において検討中である旨述べた。なお、

米側は、~~本~~ 本件が行なわれる際には席上フットノート(協定、<sup>香宮</sup> 発表文書、<sup>香宮</sup> 施設リスト、<sup>香宮</sup> 村名、<sup>香宮</sup> 返還)

沖縄に疎子米軍の状況、69年の共同声明、沖縄重要歴史年表、沖縄に関する主要データ

等。(何れも日英両文)を内外記者に配布する旨の由。また通訳は、同時通訳で行な

方から適当であるという事になった。

### 4. <sup>フリス</sup> 擬問擬答

米側より、調印直後<sup>フリス</sup> フリス<sup>フリス</sup> 対策<sup>フリス</sup> (内部資料として)

擬答を作成中であり、~~本~~ 日本側と協議なく、7日より始まる週早々に当方へ届ける旨述べた。(当方より本件は慎重に検討する必要があるべき旨指摘。是方同意)。

### 5. バックグラウンドフリーフラグ

双方とも討つたバックグラウンドフリーフラグ

は各々<sup>香宮</sup> 行なうこととした。(当方においては調印の前日に行なうことあるべき旨示唆)。

なお、米側は沖縄<sup>香宮</sup> 行なう<sup>香宮</sup> 事案の<sup>香宮</sup> 趣。

### 6. その他

米側より、調印式は、テレビ中継されること  
 なるので、NHKと交渉して、NHK側は  
 同様の放送はないことによる旨を  
 述べた。

事務次官  
 官房長  
 官房総務参事官  
 官房書記官

条約局長

条約課長

情報文化局長  
 報道課長

アメリカ局長  
 参事官  
 北米第一課長

執  
 無期限

別添  
 沖縄返還協定調印に伴う広報に関する  
 米側との打合せ(その2)

4665  
 米北一

2日の会合(記録別添)に引き続き、4日米  
 側と本件につき打合せを行なったところ下記の  
 とおり。米側はヒチコック(広報担当)、キリ  
 オン(政務担当)両書記官。当方、米北一長、  
 情道長、情道谷口、米北一法眼両事務官出席。

記

1. 米側がテレビ放送する範囲

米側より、先日条約局と打合せた際、日本  
 側より、協定付属文書署名の部分米側は放  
 送するののかとの質問があつたが、これは、日  
 本側としては米側に、付属文書署名の場面を  
 放送してもらいたくないとの意味なのかと問

うた。これに対し当方より、詳細は条約局に照会することとしたが *need confirmation* だが、これは全然差しつかえない筈であり、全部放送するか、それとも一部で切るかは全く米側次第であろう旨答えた（席上、条約課長に電話にて確かめたところ、詳細は条約局長に確認する必要があるが、付属文書署名の部分を米側が放送することは差しつかえないと思う旨述べた）。

## 2. 愛知大臣・ロジャーズ長官会話

米側より、技術的問題もあり、また式の雰囲気にもすぐわなないかも知れないので（厳粛さを欠くことになるおそれはないか）、取り止めた方がよいのではないかとの意見が述べられた。これに対し当方より、愛知大臣・ロ

ジャーズ長官間の会話はこれを行なうことに決っているわけではないので、とりあえずこのままとしておき、追って検討するということとなつた。

なお、米側より、調印式の締めくくりとして乾杯をするのかと問うたので、日韓の際も行なつたことでもあり、おそらく今回も行なうことになるであろう旨答えておいた（この点は今後官邸とつめる）。

### 3. 合同記者会見

当方より、米側より提案せる本件会見は当方において検討中である旨述べた。なお米側は、これが行なわれる際には席上ファクトシート（協定、付属発表文書、返還施設リスト、沖縄に残る米軍の概況、69年の共同声明、沖縄重要歴史年表、沖縄に関する主要データ等。いずれも日英両文）を内外記者に配布する予定の由。また通訳は、同時通訳でない方が適当であろうということとなつた。

### 4. プレス応答用擬問擬答

米側より、調印直後のプレス対策用に内部資料としての擬問擬答を作成中であり、日本側と協議すべく、7日よりはじまる週早々に当方へ届ける旨述べた。（当方より本件は慎

重につめる必要あるべき旨指摘。先方同意）。

### 5. バックグラウンド・ブリーフィング

双方とも対プレスバックグラウンド・ブリーフィングは各々別個に行なりこととした。（当方においては調印前に行なりことあるべき旨示唆）。なお、米側は沖縄においてもこれを行なりつもの趣。

### 6. その他

米側より、調印式がテレビ中継されることになつたので、NHKとしてはロジャーズ長官インタビューは同じ日には放送しないこととした由である旨述べた。